

上下水道事業に関する市民意見交換会

説明資料

”人がつながる 創造が生まれる しなやかさのあるまち”を目指した

上下水道事業部の取り組み

- ・ 岐阜市未来のまちづくり構想 1P
- ・ 岐阜市上下水道事業経営戦略 1P
- ・ 岐阜市の水道事業について 2P
- ・ 岐阜市の下水道事業について 3P

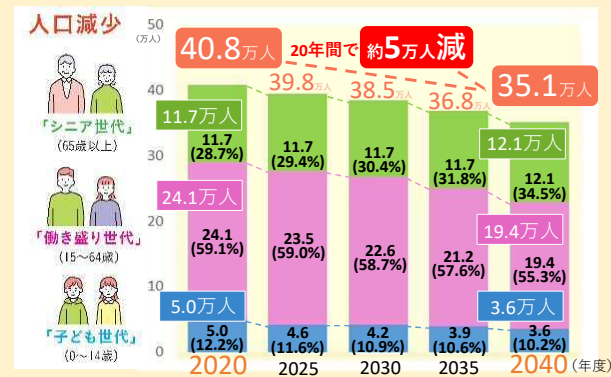
「岐阜市未来のまちづくり構想」 2022年2月策定

本構想は、岐阜市の将来像と、その実現に向けた「まちづくりの方向性」を示す総合的な方針です。本市の自然や伝統文化、都市機能などを活かしながら、2040年頃に『人がつながる創造が生まれるしなやかさのあるまち』になることを目指します。

(1) 課題 (一部掲載)

①人口減少

✓市の総人口は減少すると推計されています。
(20年間で約5万人の減少)



出典：岐阜市住民基本台帳 (2025年度以降は岐阜市推計)

②防災

✓南海トラフ地震が発生した場合、大きな被害が発生すると予測されています。

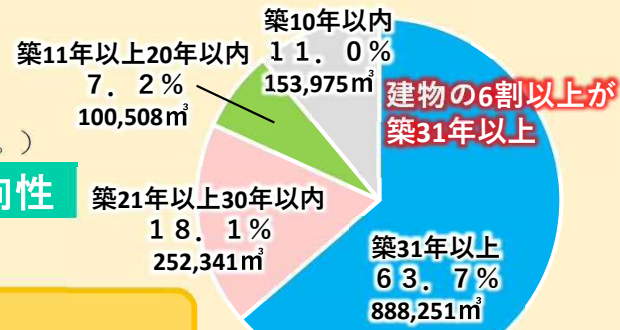
○人的・物的被害

建物被害	全壊	11,255棟
	半壊	31,874棟
	焼失家屋	293棟
人的被害	死者	412人 発生時刻 夕方6時の場合
	負傷者	4,118人 発生時刻 午前5時の場合
避難者数		約34,300人

出典：岐阜市地震被害想定調査 (2020年12月)

③公共施設等の老朽化

✓市の建築物系施設のうち、建築後30年を超えるものは、約60%を占め、老朽化が進んでいます。
(上下水道施設は含んでおりません。別添資料をご参照ください。)



【出展：岐阜市集計 (建物系施設の保有状況) (延床面積) <2001年4月1日時点>】

(2) 将来像の実現に向けたまちづくりの方向性

①まちづくりの基本的な考え方

- 1 オール岐阜のまちづくり
- 2 シビックプライドの醸成
- 3 DX (デジタルトランスフォーメーション) と脱炭素化
- 4 持続可能で選ばれるまち

②分野ごとのまちづくりの方向性 (上下水道事業に関連する記載の抜粋)

市民協働・防災・環境

○いのちと暮らしを守る防災

・道路や橋梁、上下水道などの適切な維持管理や更新、耐震化、計画的な整備や長寿命化を推進するとともに、住宅や多くの人々が利用する建築物の耐震化を支援

都市基盤整備・交通・中心市街地活性化

○住み続けられる安全・安心なまちづくり

・市民の誰もが住み続けたいと思う魅力あるまちを実現するため、道路や河川、公園、上下水道、ごみ処理施設などを適切に整備し、都市環境や都市基盤の効率的かつ効果的な維持・更新を図る
・将来にわたって安定的かつ持続可能な上下水道事業に取り組み、ライフラインとしての機能を維持するとともに、衛生的で快適な都市環境を実現する
・良質で豊富な長良川の伏流水や地下水を活かしつつ、水質管理の充実や強化等を図り、安全でおいしい水の供給を図る

「岐阜市上下水道事業経営戦略」 2020年2月策定

経営理念 「水」を通じて、当たり前の暮らしを未来まで支えます

24時間、365日
～水道・下水道によって、安全・安心・快適な生活を支え続けます～

基本方針① 施設の機能維持 ～適切な維持管理、老朽化対策、強靱化～

✓上下水道施設の適切な維持管理を確実に行うとともに、大規模災害時においても機能を確保できるよう、老朽化対策や耐震化などに取り組んでいきます。

【水道管路の強靱化】



金華地区配水幹線布設替工事

【鏡岩水源地管理棟改築工事】



現在の管理棟 昭和48年竣工 (築50年)



建設中の新管理棟 令和6年完成予定

【下水管渠の強靱化】



中部幹線バイパス管工事

【老朽化が進む下水処理施設】



北部プラント 昭和41年供用開始 (築57年)



南部プラント 昭和48年供用開始 (築50年)

基本方針② 財政基盤の強化 ～支出減・収入増による持続可能な財政基盤の確立～

✓能率的かつ合理的な事業運営に努めるとともに、持続可能な財政基盤を確立します。

基本方針③ 組織の整備・人材育成 ～組織体制の見直し・職員育成～

✓職員研修等の実施、適正な人員配置、技術・技能の継承などに取り組めます。

基本方針④ お客様の信頼醸成 ～わかりやすく積極的な広報～

✓積極的な情報発信、お客様の意見の聴取と寄せられた意見等の事業への反映に取り組めます。

上下水道事業は、地方公営企業として、受益者である利用者の皆様からいただく料金収入によって、サービスの提供に係る費用を賄う受益者負担の原則のもと事業を運営しております。

上下水道事業部では、上下水道を身近なライフラインとして、24時間、365日、休むことなく市民の皆様の快適な生活を支えていくため、施設の計画的な更新と適切な維持管理などに取り組んでおります。

市民の皆様におかれましては、上下水道事業の現状及び取組みをご理解いただき、今後ともご協力賜りますようお願いいたします。

岐阜市の水道事業について

概要

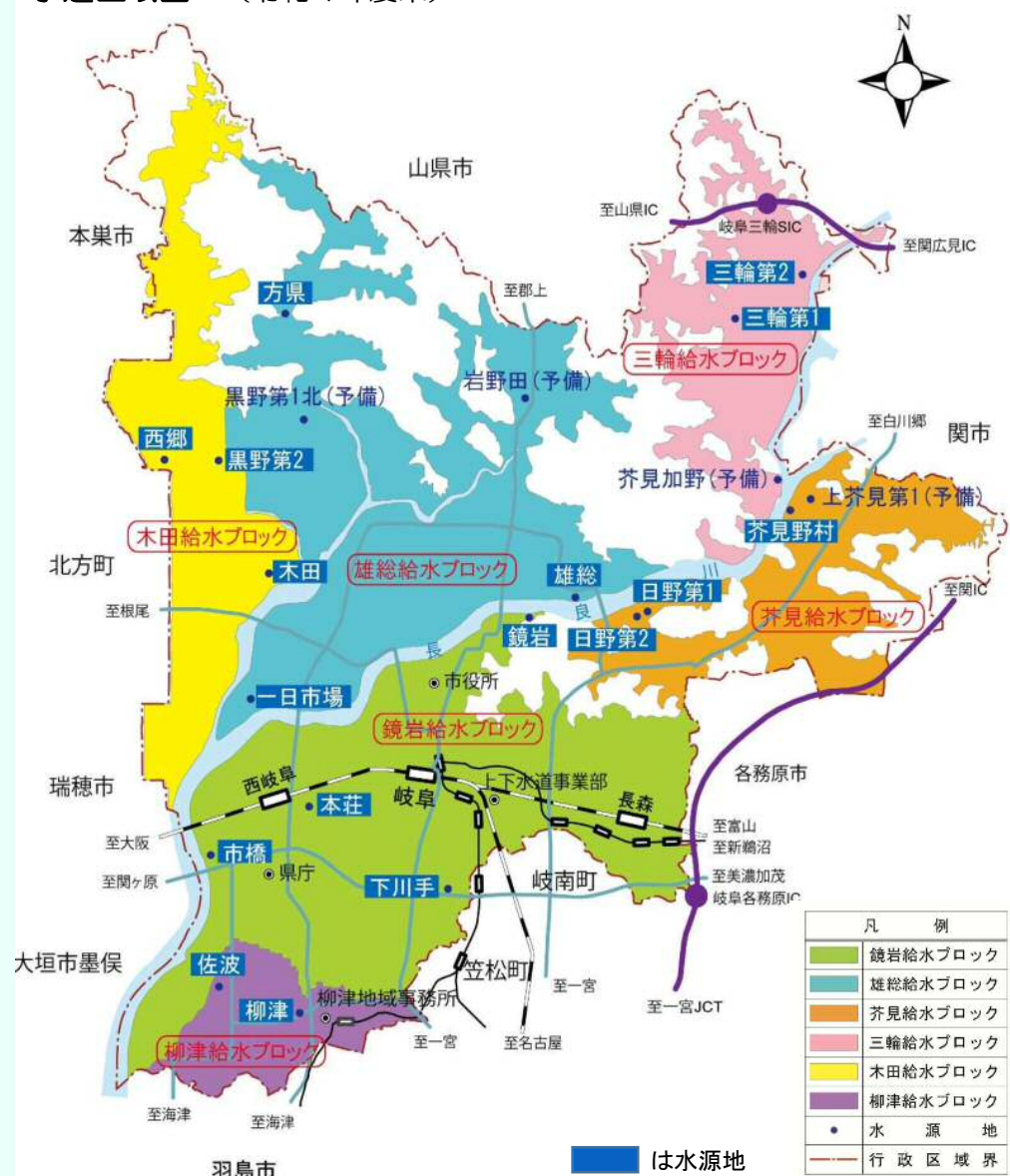
本市の水道は、昭和3年に鏡岩水源地の建設工事に着手して以来、良質で豊富な長良川の伏流水や地下水を水源としています。

現在では、地形や施設の効率性を考慮して、給水区域を6つに分け、17箇所の水源地と21箇所の加圧施設、40箇所の配水池を配置しています。

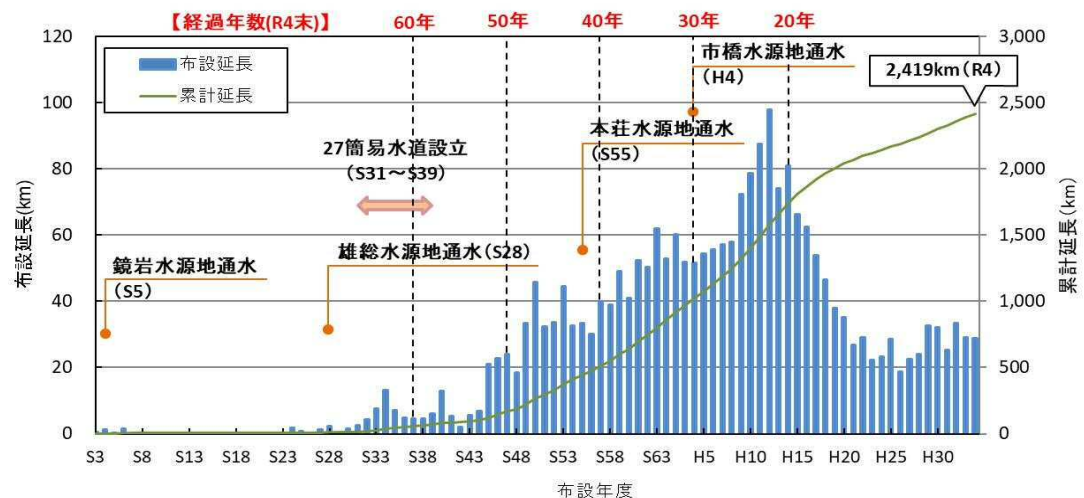
水道は、生活に不可欠な水を安定的に供給する施設であり、安全な水道水を供給することで皆様の快適な生活を支えています。

- 水道管総延長：約2,419km
(参考) 水道管の総延長は、新函館北斗(北海道)～鹿児島中央駅間(鹿児島県)の営業距離(約2,326km)とほぼ同じです。
- 水源地：17箇所
- 加圧施設：21箇所
- 配水池：40箇所
- 水道普及率(給水人口/総人口)
343,091人/401,294人=85.5%(令和4年度末)

水道区域図 (令和4年度末)



水道施設の老朽化・耐震化状況



老朽化の状況 (40年経過管延長)

【令和4年度末】
総延長の**21%** (約512km)
更新しない場合、20年後には…

【令和24年度末】
総延長の**72%** (約1,740km)



耐震化の状況

	【H30】	【R4】	【R6(予定)】
○ 水源地：浄水施設の耐震化率	44%	22%UP	66%
○ 配水池：配水池の耐震化率	68%	8%UP	76%
○ 基幹管路：基幹管路の耐震管率 (令和4年度末の基幹管路延長は、132km)	46% (60km)	1%UP (2km)	47% (62km)
○ 管路全体：管路全体の耐震管率	18% (432km)	5%UP (120km)	23% (552km)

鏡岩水源地管理棟の改築後は、**28%UP** 94%
本荘配水池の耐震化後は、**5%UP** 81%

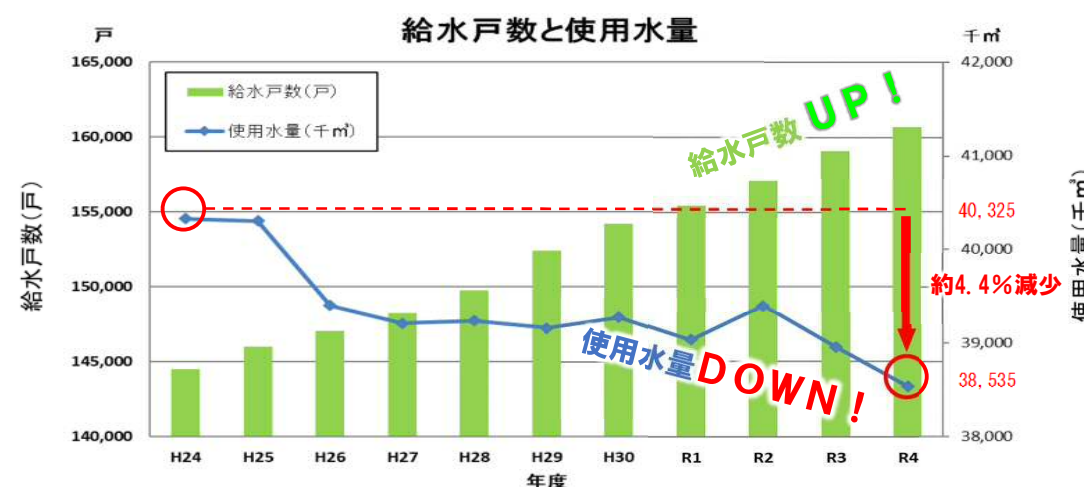
年間約2.4km(更新率1%)の水道管を更新

水道施設の老朽化

柳津水源地管理棟(現在)

老朽化対策、耐震化を進めるため、今後も計画的に改築・更新に取り組んでまいります。

水道の利用状況



- 給水戸数
約160,711戸
- 年間使用水量
約3,853万m³
- 1戸 月当たり平均
・使用水量
約20m³
(風呂1回200ℓ×100回分)
・水道料金
約2,930円

給水戸数は増加している一方、人口減少や節水型社会の進展により、さらなる使用水量の減少が見込まれる中、今後経営が厳しくなると予想されるため、事業の効率化や経費の削減に努めるなど、持続可能な水道事業の運営に取り組んでまいります。

水道料金の算定期間は、「水道料金のあり方について(令和2年度上下水道事業経営審議会答申)」により、令和3年度から令和6年度までの4年間と設定されております。このため、令和6年度、「水道料金のあり方」について、市内での検討を行い、岐阜市上下水道事業経営審議会において審議していただく予定であります。

岐阜市の下水道事業について

概要

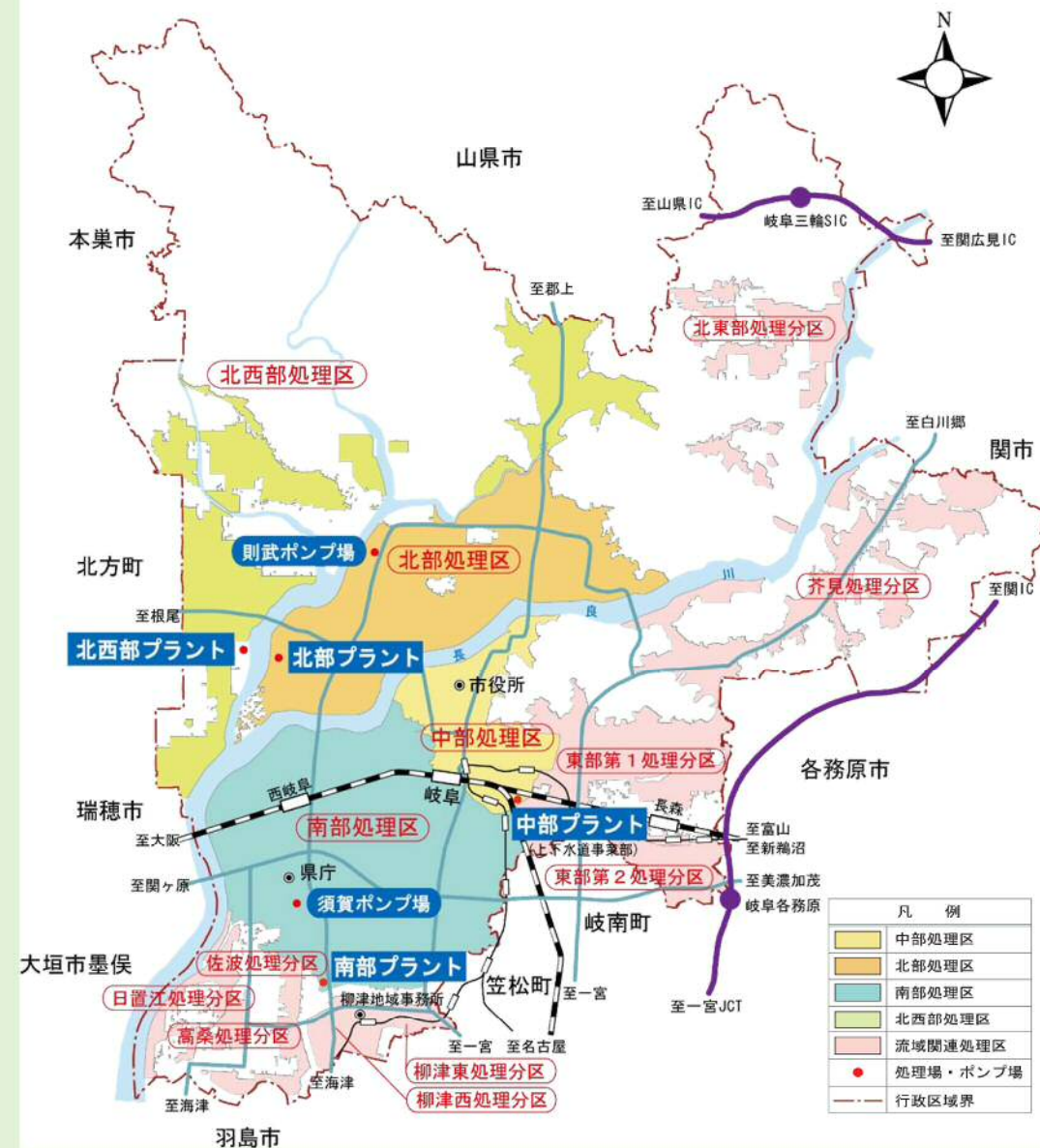
本市の下水道は、昭和9年に当時では画期的な汚水と雨水を分けて処理する分流水道道を日本で最初に採用しました。

現在では、処理区域を5つの処理区に分け、4箇所の下水処理場と2箇所の汚水ポンプ場を配置しています。

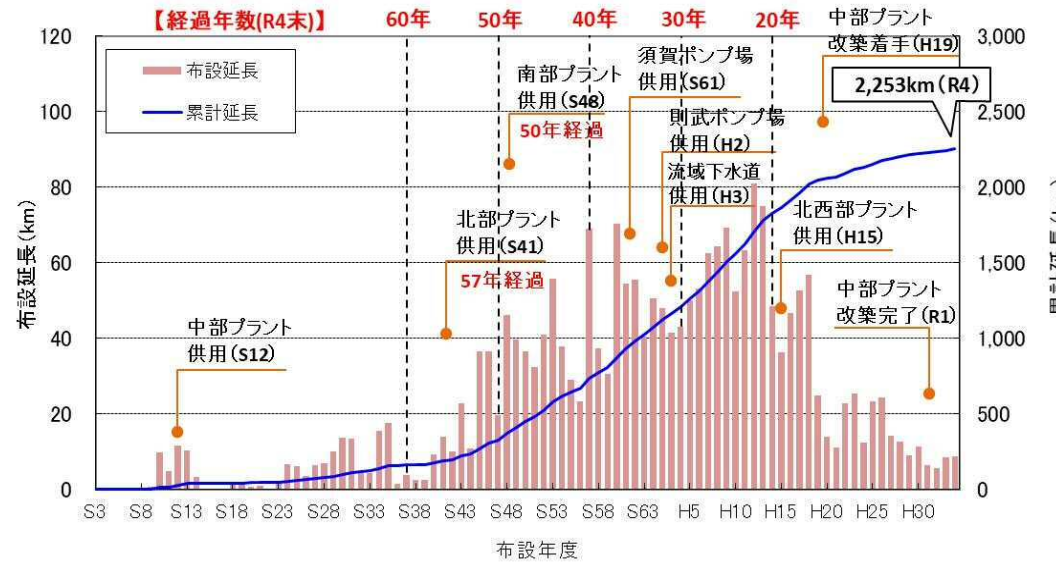
下水道の整備により、公衆衛生の向上、公共用水域の水質保全など、皆様の快適な生活に寄与しています。

- 下水道管渠総延長：約2,253km
(参考) 下水道管渠の総延長は、新函館北斗(北海道)～鹿児島中央駅間(鹿児島県)の営業距離(約2,326km)とほぼ同じです。
- 下水処理場：4箇所
- 汚水ポンプ場：2箇所
- 下水道普及率(下水道管渠が整備された地区に住む人口/総人口)
377,800人/401,294人=94.1%(令和4年度末)

下水道処理区域図 (令和4年度末)



下水道施設の老朽化・耐震化状況



老朽化の状況 (50年経過管延長)

【令和4年度末】
総延長の**14%** (約 325 km)

更新しない場合、20年後には…

【令和24年度末】
総延長の**54%** (約 1,207 km)

老朽管の状況



管の破損・クラック

耐震化の状況

- 処理場：揚水・沈殿・消毒施設の耐震化率 **58%**
- 重要な幹線管渠：重要な幹線管渠の耐震化率 **43%** (138km)

【H30】

58% (維持※)

【R4】

58%

2%UP (16km)

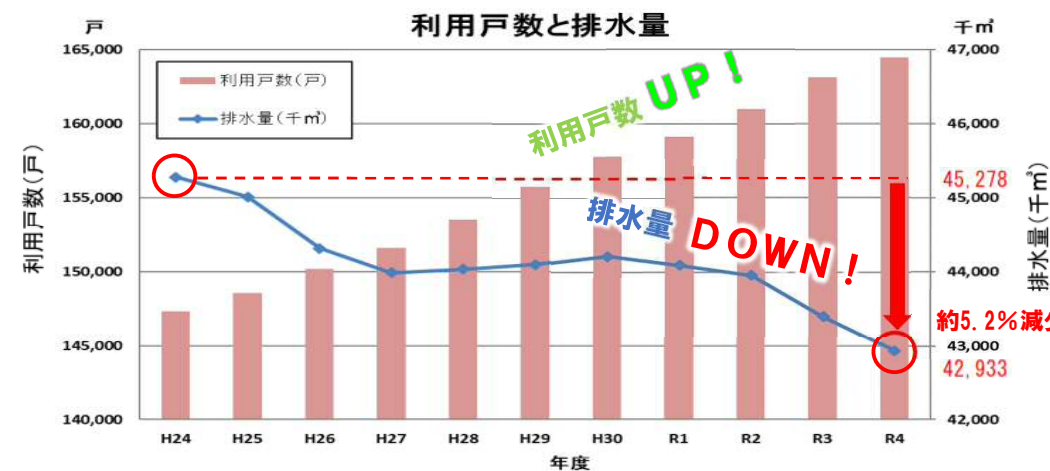
北部プラント



供用開始から50年以上が経過した水処理施設

老朽化対策、耐震化を進めるため、今後も計画的に改築・更新に取り組んでまいります。

下水道の利用状況



【令和4年度】

- 利用戸数 約164,506戸
- 年間排水量 約4,293万m³
- 1戸 月当たり平均
・排水量 約21m³
(風呂1回200ℓ×105回分)
・下水料金 約3,230円

下水道の利用戸数は増加している一方、人口減少や節水型社会の進展により、さらなる排水量の減少が見込まれる中、今後経営が厳しくなることが予想されるため、事業の効率化や経費の削減に努めるなど、持続可能な下水道事業の運営に取り組んでまいります。

下水料金の算定期間は、「下水料金のあり方について(令和元年度上下水道事業経営審議会答申)」により、令和2年度から令和5年度までの4年間と設定されています。このため、今年度、「下水料金のあり方」について、庁内での検討を行い、岐阜市上下水道事業経営審議会において審議していただく予定であります。